



①発信する ②追究する ③粘り強く ④つながる ⑤思いや願いを実現しようとする ⑥課題解決する

豊かな経験をさせたい！

校長 このみ しんや 許斐 真也

登校指導で正門に立っていると、子どもの朝の様子が伝わってきます。起きてさほど時間が過ぎていない感じの子、明るい表情でやる気にあふれている子、心配なことがあるのか、何となくいつもと様子が違う子、様々です。私からは、挨拶だけではなく、持ち物などをきっかけに話しかけることがあります。「(かぶっている帽子を指して) つばが大きくて、日よけによさそうですね」

「その箱、何の学習で使うの?」「(その虫かごに) 入っているクワガタはどこで捕まえたの?」中には私に話しかけてくる子もいます。「校長先生、昨日家族で〇〇公園に行ったんだよ、そこでテントを張って…」その話し方や表情から、休日を楽しく有意義に過ごしたことがわかります。一方、ある調査によると子どもの自由な時間の過ごし方は「スマートフォン等でゲームをしたり、友だちとつながったりする」「テレビや動画を見る」が上位を占め「外遊び」「友だちと遊ぶ」ことが少ない実態が明らかになっています。いわゆる「ゲーム依存」についても様々な報道があり、心配されるところです。

一方「生活経験が豊かな子」「お手伝いをする子」「自然体験が豊富な子」「季節や年齢等『節目の行事』」をよくする家庭の子は道徳観や正義感が充実している傾向があることも同時に報告されています。また、さまざまな人との交流や自然の中の活動を通して「他人に共感すること」

「自分が社会の一員であること」「自分が大切な存在であること」などを実感し、思いやりの心や規範意識が育まれていくと言われています。

学校では教室の中での学習だけではなく、自然と触れ合ったり(花や野菜、生き物を育てる活動)地域の人と交流したり(総合や食育などで地域の方に教えていただく学習)校外学習で施設などを見学したりするなど様々な体験的活動をしています。コロナ禍により、一時期ほぼ中止していましたが、状況に応じて取組を広げています。5年生は「元気村」の皆さんに米作りについて学び、代掻きや田植えを行いました。どろんこになり田植えをしましたが、はだして田んぼに入るのが初めての子どもたちは「気持ち悪い」「ぬるぬるする」などと言い合いながら足を洗っていました。しかしその表情からは充実感が窺えました。他にも、体力テストを低高2学年ずつの「ペア学年」でサポートしながら取り組むなど多種多様な活動を進めています。

これらの体験的活動は、学校の教育計画に組み込まれているもので、主導しているのは基本的に学校です。願わくば、放課後や休日の子どもたちにも体験的な活動をしてほしいと思っています。お金をかけなくても、大人と一緒になくてもできる活動をしてほしいです。つまり、友だちと外で遊んだり、ご家族と一緒に遊んだりして様々な体験をしてほしいと願っています。その中で少し大人が関わることもよいのですが、なにも特別なことではありません。夏休みは大きなチャンスと思います。これからも学校とご家庭・地域が連携して子どもが育つ体制整備、環境づくりに努めていきたいと思っています。一層のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。